

共通科目の内容（医道審議会 保健師助産看護分科特定行為・研修部会『特定行為研修の研修内容等に関する意見』より抜粋）

科目	学ぶべき事項	時間
臨床病態生理学	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	30
臨床推論	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診断のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 4. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6. 臨床疫学の理論と演習	45
フィジカルアセスメント	身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系 3. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 4. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	45
臨床薬理学	薬剤学、薬理学を学ぶ 1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 3. 主要薬物の相互作用の理論と演習 4. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 年齢による特性（小児/高齢者）を含む	45
疾病・臨床	主要疾患の病態と臨床診断・治療を学ぶ	30

病態概論	<p>主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論</p> <p>循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他</p>	
	<p>状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</p>	10
医療安全学	<p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ</p> <p>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ</p> <p style="margin-left: 40px;">医療倫理</p> <p style="margin-left: 40px;">医療管理</p> <p style="margin-left: 40px;">医療安全</p> <p style="margin-left: 40px;">ケアの質保証</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work（IPw））（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ</p> <p style="margin-left: 40px;">チーム医療の理論と演習・実習</p> <p style="margin-left: 40px;">チーム医療の事例検討</p> <p style="margin-left: 40px;">コンサルテーションの方法</p> <p style="margin-left: 40px;">多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ</p> <p style="margin-left: 40px;">特定行為関連法規</p> <p style="margin-left: 40px;">特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p style="margin-left: 40px;">手順書の位置づけ</p> <p style="margin-left: 40px;">手順書の作成演習</p> <p style="margin-left: 40px;">手順書の評価と改良</p>	45

区分別科目の内容

以下の表の左欄に掲げる区分別科目は右欄に掲げる時間数以上であることとする。

また、現行では、区分別科目の時間内で実習を行うこととしているが、区分別科目の時間とは別に、行為の難度に応じて5例又は10例程度の症例数で実習を行うこととする。

特定行為区分	学ぶべき事項	時間
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 1. 気道確保に関する局所解剖 2. 気管挿管の目的、適応と禁忌 3. 気管チューブの位置の評価法、調整の目的 4. 気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント 5. 気管チューブの位置の調整に関する病態生理 6. バックバルブマスク（BVM）を用いた用手換気 7. 気管チューブの位置の調整の手技 8. 気管チューブの位置の調整に伴うリスク（有害事象とその対策等）	9
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更 1. 人工呼吸療法の目的、適応、禁忌 2. 肺胞におけるガス交換の生理学 3. 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理 4. 人工呼吸療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 麻酔器・人工呼吸器のメカニズム（構造・種類・モード） 6. 人工呼吸器の設定の確認 7. 人工呼吸器の設定とその変更 8. 人工呼吸器の設定変更に伴うリスク（有害事象とその対策等）	17
	人工呼吸器からの離脱 1. 人工呼吸器からの離脱の目的 2. 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌 3. 人工呼吸器からの離脱可能性の評価方法 4. 人工呼吸器からの離脱の方法 5. 人工呼吸器離脱後の評価方法	

	6. 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
動脈血液ガス分析関連	<p>直接動脈穿刺法による採血</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動脈穿刺法に関する局所解剖 2. 動脈穿刺法に関するフィジカルアセスメント 3. 超音波検査による動脈と静脈の見分け方 4. 動脈血採取が必要となる検査 5. 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態 6. 直接動脈穿刺法による採血の適応と禁忌 7. 患者に適した穿刺部位の選択 8. 穿刺部位と穿刺に伴うリスク（有害事象とその対策等） 	13
	<p>橈骨動脈ラインの確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌 2. 患者に適した穿刺及び留置部位の選択 3. 動脈穿刺時に必要な消毒と感染予防 4. 穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（有害事象とその対策等） 	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	<p>脱水症状に対する輸液による補正</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脱水症状の原因と分類 2. 脱水症状の病態生理 3. 脱水や低栄養状態に関する主要症候 4. 脱水症状に関するフィジカルアセスメント 5. 脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理 6. 輸液時に必要な検査 7. 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法、副作用 8. 輸液療法の計画方法 9. 輸液による補正のリスク（有害事象とその対策等） 	10
術後疼痛管理関連	<p>硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖 2. 硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌 3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 4. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 5. 局所麻酔薬の種類と臨床薬理 6. 局所麻酔薬の選択と投与量 	8

	7. 硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）	
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 1. 輸液療法の目的と種類 2. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌 3. 高血糖・低血糖の主要徴候とフィジカルアセスメント 4. 電解質不足・過剰時の主要徴候とフィジカルアセスメント 5. 糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理 6. 各種糖質輸液、電解質輸液の適応と使用方法 7. 各種糖質輸液、電解質輸液の副作用 8. 各種糖質輸液、電解質輸液の投与計画 9. 持続点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）	10

作成者補足

- ・ 基本的に、第6回看護師特定行為・研修部会『特定行為及び特定行為研修の基準等に関する意見（案）』（平成26年12月17日公表）を元に作成。
- ・ 共通部分に関しては、外科パッケージや慢性期パッケージとの兼ね合いもあり、変更は望まれていないと思われるので、そのまま現行のものを流用した。
- ・ 区分別に関しては、パッケージ化したことにより、重複する内容を削除した（例：「挿管チューブの位置調整」と「人工呼吸の変更」の両方に気道に関する局所解剖の項目があるなど）
- ・ 重複部分を削除後、提示された時間数に比較して明らかに内容が少ない部分は追加した（赤字部分に相当）
- ・ 今回の改定より実習は規定時間とは別に行うこととなっているが、従前より存在した演習、試験の扱いは記載がない。講義例（エクセルファイル）では、試験は講義時間内にカウントしている。
- ・ 周術期パッケージで学習するにあたり、特定行為には含まれないが知っておくべき知識についてもパッケージ化したらどうかという提案が今までの会議であった。そのため、必須ではないが、オプションとしてパッケージ全体の共通講義の案も合わせて提示した。